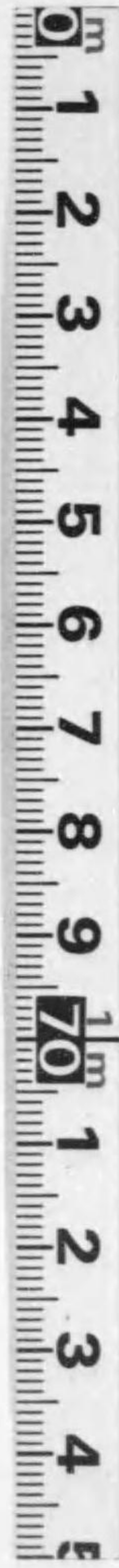


326

339

西 比 利 亞 研 究 第 四 編
千 九 百 一 十 六 年
烏 蘇 里 礦 山 地 方 採 鑛 業 現 狀 報 告



始



326
339
大正七年九月

西比利亞ノ研究 第四編

千九百十六年
烏蘇里礦山地方
採鑛業現狀報告

烏蘇里地方鑛山技師オヴオデンコ

代筆寫

大藏省臨時調査局金融部

326-339



例言

一、石炭ハ布度ヲ噸ニ換算ス(一噸ハ六十二布度ニ「フント」)
 二、金鑛ハ「フント」ヲ百十匁一「ゾロトニツク」ヲ一匁二分トシ匁目ヲ單位トシテ換算
 ス、但「ド」リヤハ其ノ量微少ナルヲ以テ切棄テタリ
 三、「サ」セシハ七呎(七尺)トシテ換算ス



「 却 寄 贈 本 」

大正
 7 10 4
 寄贈



一、露國度量衡

度

エルシヨーク
アルシン(十六エルシヨーク)
サージエン(三アルシン)
エルスト(五〇〇サージエン)

一寸四分六厘

二尺三寸四分七厘弱

七尺四分強

九町四十六間四尺強

一步強

一町一段四步強

百十四町七段五畝十二步

百九畝強

四貫三百六十八畝強

地積

平方サージエン
デシヤチン(二四〇平方サージエン)
平方エルスト

衡

フント
布度

二、露國貨幣

留(百哥)

一圓三錢四厘

一錢三厘

千九百十六年 烏蘇里礦山地方 採鑛業現狀報告

目次

概 說

第一章	石炭鑛業	一
第二章	金屬鑛業	一一
第三章	金鑛業	二一
第四章	碎石業	二四
第五章	耐火粘土ノ採掘竝煉瓦工場	二五
第六章	セメント及石灰ノ製造	二六
第七章	爆發物	二六
第八章	勞働者	二七
第九章	技術員	四三
第十章	烏蘇里地方鑛山業發達ニ關スル施設	四四

頁數

概 説

本書ハ烏蘇里地方鑛山技師オゾデンコ氏ノ千九百十六年烏蘇里鑛山地方採鑛業
現狀報告ヲ翻譯シタルモノナリ、本報告ハ先ツ第一ニ大正五年度ニ於ケル同地方ノ
石炭鑛業及金屬鑛業ニ就キテ其現狀ノ概要ヲ記述シ次ニ同地方ニ於ケル碎石業、耐
火粘土ノ採掘、煉瓦工場、セメント及石灰ノ製造竝ニ諸鑛山會社ノ爆發物使用量ニ就
キテ一瞥ヲ與ヘ最後ニ同地方ニ於ケル鑛業勞働者及技術員ノ狀態ヲ叙ヘ且烏蘇里
地方鑛山業發達ニ關スル施設ニ及フ其叙述簡潔明快ニシテ以テ最近ニ於ケル烏蘇
里鑛山地方採鑛業ノ概要ヲ知ルヲ得可シ

千九百十六年 烏蘇里礦山地方採鑛業現狀報告

本年度ニ於ケル烏蘇里礦山地方私營鑛業會社ニ於テ採掘セル鑛產物種目左ノ如シ
一、石炭及褐炭

二、鐵、鉛、鋅、銅、鐵鑛

三、金

右ノ外本地方ニ於テセメント及石灰ノ原料タル石灰石及建築用石材ノ採掘ヲ目的トスル石王場並ニ粘土採掘所、石灰工場、セメント工場、煉瓦工場等モ亦相當ノ成績ヲ擧ケタリ

第一章 石炭鑛業

本年度ニ於テ國有財産管理局ハ石炭鑛調査ノ爲三通ノ許可證明狀ヲ發セリ、本年度ニ於テハ新炭坑ノ指定ハ一モ之無カリキ、而シテ新坑調査ノ自由ヲ許サレタル地區ハ十九箇所ニ上レリ、一九一七年一月一日現在本地方ニ於ケル炭坑數ハ六十七箇所ニシテ、内六十五箇所ハ國有地ニ、他ノ二箇所ハ烏蘇里ニコリスク市々有地ニ存在セ

本年度ニ於テ石炭採掘ヲ行ヒタル礦業工場ハ二十九箇所ニシテ、自餘ノ三十八箇所ハ業務ニ從事セサリキ、業務ニ從事セル工場中市場ニ對スル供給ヲ目的トセシハ僅々十二箇所ニ過キス、其他ノ十七坑ハ専ラ義務採掘ニ從ヘリ

一九一七年現在烏蘇里礦山地方石炭及褐炭

順序番號	坑	名	認可年月	於一九一六年營業狀態
一	(一) 國有土地ニ於ケルモノ	アレクサンドロフスキイ (マグダリナ、ボレスラーグ、ナオルダコロフスカヤ所有)	一九一三年	休
二	アレクサンドロフスキイ (ニイナ、ウラヂミロウ)	アレクセーフスキイ (リュチアン、レオポルド、非ツチ、アルツト所有)	一九一二年	休
三	アレクセーフスキイ (リュチアン、レオポルド、非ツチ、アルツト所有)	ブルブーリン (イヴン、ツシリーエボツチスト、リヤローフ所有一九一六年讓渡)	一九一三年	義務採掘極少量
四	ブルブーリン (イヴン、ツシリーエボツチスト、リヤローフ所有一九一六年讓渡)	ヴレンチノーフスキイ (同上)	同	休
五	ヴレンチノーフスキイ (同上)	ヴィソキー (同上)	同	休
六	ヴィソキー (同上)	ドミートリエフスキイ (ニイナ、スタールツエ、ツ所有アルツト借用)	一九一一年	從業
七	ドミートリエフスキイ (ニイナ、スタールツエ、ツ所有アルツト借用)			

八	ダヴィドフスキイ (マグダリナ、オルダコロフ、スカヤ所有一九一三年讓渡)	七月廿八日	從業
九	第一ズイブンヌイ (レイバ、シメノウツチ、スキデーリススキイ所有)	十一月廿七日	休
一〇	第二ズイブンヌイ	同	休
一一	第三ズイブンヌイ	同	休
一二	イヴノフスキイ (イヴン、ストリヤローフ所有一九一六年讓渡)	十一月廿七日	休
一三	第一クラルクソーフスキイ (米人クララリン所有)	七月廿三日	休
一四	第二クラルクソーフスキイ	同	休
一五	第三クラルクソーフスキイ	同	休
一六	第四クラルクソーフスキイ	同	休
一七	第一リアピンススキイ (リュチアン、アルツト所有一九一六年採掘權ヲ與ヘラル)	十二月廿八日	義務採掘
一八	第二リアピンススキイ	同	同上
一九	第三リアピンススキイ	同	同上
二〇	第四リアピンススキイ	同	同上
二一	第五リアピンススキイ	同	同上
二二	第六リアピンススキイ	同	同上

二二	第七リアピンスキイ <small>(リュチアン、アルツト所有一)</small>	一九一一年十二月廿八日	四	義務採掘
二四	第八リアピンスキイ 同 上	同上	同	同上
二五	第一リボヴェーツキイ <small>(リボヴェーツキイ炭礦會社所有スキデーリスキイ借用)</small>	一九一二年十二月廿一日	休	
二六	第二リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
二七	第三リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
二八	第四リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
二九	第二十三リボヴェーツキイ 同 上	一九一六年九月廿七日	休	
三〇	第二十四リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
三一	第二十五リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
三二	第二十六リボヴェーツキイ 同 上	一九一六年九月廿四日	休	
三三	第三十一リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
三四	第三十二リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
三五	第三十三リボヴェーツキイ 同 上	一九一六年九月廿七日	休	
三六	第三十五リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
三七	第三十七リボヴェーツキイ 同 上	一九一六年九月廿四日	休	

三八	第四十三リボヴェーツキイ 同 上	一九一六年九月廿七日	休	
三九	第四十四リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
四〇	第四十五リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
四一	第四十六リボヴェーツキイ 同 上	同上	休	
四二	ルゴヴォイ <small>(イヴン、ストリヤロフ一九一六年讓渡)</small>	一九一四年十一月廿七日	休	
四三	第一マングハイスキイ <small>(ユレイ、イヴリノボツチ、プリネール所有一九一〇年讓渡)</small>	一九一〇年十月十八日	義務採掘	
四四	第二マングハイスキイ 同 上	同上	同上	
四五	第三マングハイスキイ 同 上	同上	同上	
四六	第四マングハイスキイ 同 上	同上	同上	
四七	第一ナデージンスキイ <small>(リュチアン、アルツト所有一九一〇年三月三十一日採掘權認可)</small>	一九一五年九月廿五日	同上	
四八	第二ナデージンスキイ 同 上	同上	同上	
四九	第三ナデージンスキイ 同 上	同上	同上	
五〇	第四ナデージンスキイ 同 上	同上	同上	
五一	ノーヴォヤ、ナデージダ <small>(新希望)</small> <small>(マガダリナ、オルダコルフスカヤ所有一九一三年讓渡)</small>	一九二〇年七月九日	從業	
五二	ニーニンスキイ <small>(ニーナ、スタルツエフ所有アルツト借用)</small>	一九一一年七月廿一日	同上	

五三	ニコライエフスキイ(ニーナ、スタルツエフ所有アルツト借用)	七月廿一日年	六	業
五四	ニコライエフスキイ(アレクサンドル、ニコラエフツチ、チシチ)	九月十五日年	同	業
五五	第一オクチャイブリススキイ(十月)(ム商會所有)	三月廿三日年	休	業
五六	第二(十月)	同	休	業
五七	第三(十月)	同	休	業
五八	第一ポドゴロドニイ(同上一九一〇年九月十八日採掘權認可)	十月十四日年	休	業
五九	第二ポドゴロドニイ	同	休	業
六〇	第三ポドゴロドニイ	同	休	業
六一	第四ポドゴロドニイ	同	休	業
六二	第一スイフンススキイ(アンフィローゴフ相續者所有)	七月廿日年	從	業
六三	第二スイフンススキイ	七月三十七日年	同	業
六四	第一タヴリーチエスキイ(ダボド、クラルクリン所有)	同	同	業
六五	第二タヴリーチエスキイ	同	同	業
六六	(二)烏蘇里ニコリスクス市々有地所在 ダニエロフスキイ(ボロチン相續者所有)	同	同	業

六七 ナデージンスキイ(コトリヤロフ、ツイストロ) 同 上 同 上

石炭採掘高 本年度ニ於テ本地方所在各私營石炭事業ノ採掘量ハ左ノ如シ

石炭 九七、三八九噸

褐炭 二二〇、七四五噸

計 三一八、一三四噸

千九百十六年度ニ於ケル採掘量ハ千九百十五年度ニ比シ六萬九千七百九十一噸ノ増加ヲ示シタリ

「スーチャン」國有炭坑ニ於ケル本年度ノ採炭額ハ二十六萬五千五百五十噸、内煉炭二十二萬二千四百十五噸及半無煙炭四萬三千三十六噸ニシテ烏蘇里礦山地方ニ於ケル千九百十六年度ノ石炭及褐炭ノ採掘高合計五十八萬三千六百八十五噸ナリ

烏蘇里礦山地方ニ於ケル採炭額年々増加シツツアルハ次ノ表ニヨリテ知ルヲ得ヘシ

採炭 額(單位噸)

年次	石炭	褐炭	石炭	褐炭	合計
一九一一年	五七、九四三	六六、二二八	七五、九二〇	一二四、一七〇	一、二四、一七〇
一九一二年	八一、一一四	七五、九二〇	一〇三、〇〇九	一五七、〇三四	一五七、〇三四
一九一三年	六八、〇七〇	一〇三、〇〇九	一二四、六五〇	一六九、六七九	一六九、六七九
一九一四年	一〇四、二六三	一二四、六五〇	一八三、一二九	二二八、九〇八	二二八、九〇八
一九一五年	六五、二一四	一二四、六五〇	一八三、一二九	二四八、三四三	二四八、三四三
一九一六年	九七、三八九	一二四、六五〇	二二〇、七四五	三二八、一三四	三二八、一三四

最近三年間烏蘇里礦區諸會社別採炭高(單位噸)

順序 番號	會社名	一九一四年		一九一五年		一九一六年	
		石炭	褐炭	石炭	褐炭	石炭	褐炭
一	アルツト	七二	一四、五一	七三	八七、六三四	五八、三六九	
二	リンドホルム商會	四一、六七九		三七、五三三		七〇、一六	
三	スキデーリスキイ	三四、三九一		五、三三二			
四	アンフイローゴフ相續者	五、六〇九		九〇、三五八			
五	ボロヂン相續者	一七、一三五		一四、九五四		二〇、二九	
六	オルダコーフスカヤ			三、八九六		九、五三三	

七	八	九
コトリヤイロフグイスト ロイフベレンデーク商會	一、五五七	三、五三二
ブリネール	三、一三六	二、三四九
チシチエーフスキイ	二、八六九	一、三四〇
計	二二八、九〇三	二四八、三四三
		三一八、一三四

本年度ニ於ケル採炭高ノ減少(千九百十五年ニ比シテ)ハ「アルツト」所有ノ炭坑ニ於テ之ヲ見タルノミナリ、而シテ其原因タルヤ同人所有ノ堅坑カ既ニ殆ト採掘シ盡サレ且新ニ開鑿シタル堅坑ハ未タ採礦ニ着手スル運ヒニ至ラサリシカ爲ナリ(市場ニ於ケル機械、ボイラー、唧筒、レール、條綱等ノ缺乏セルカ故ニ諸坑ノ連絡其他ノ設備ヲ遂行シ得サリシモノナリ)

石炭ノ販賣 本年度ニ於ケル石炭ノ賣價ハ(鑛山渡)褐炭一布度七哥半ヨリ十五哥迄、石炭一布度四哥ヨリ十五哥迄(但四哥ノ分ハ粉炭ニ限ル)

種類	價格
褐炭	一九七、〇八七
石炭	七三、八二五
計	二七〇、九一二

褐炭ノ主ナル需要者ハ東清鐵道ニシテ本年度ニ於テ同鐵道ノ使用セル褐炭ハ十二萬八千噸以上ニ上レリ自餘ノ石炭ハ各工場製粉所個人需要者(暖室用)等ニ供給セラ

ル
烏蘇里地方ニ產出スル石炭ハ品質ノ佳良ヲ以テ誇ルヲ得サルヲ以テ之ヲ一面ヨリ見レハ汽船其他ノ使用ニ適セス又一面ヨリ見レハ「スーチャン」官有炭坑產ノ石炭並ニ若干ノ日本產石炭ト競争スル能ハサルヲ遺憾トス
千九百十六年度ニ於テ輸入セラレタル外國炭量左ノ如シ

- 一、浦鹽着日本炭 四五、二四七
- 二、テチュールへ着日本炭 一、九〇二

計 四七、一四九

右ノ外露國水方諸港ヨリ浦鹽港へ輸入セラレタル露國炭約三噸ヲ計上スルヲ得
註、本年度ニ於テ「スーチャン」官有炭坑ノ賣捌キタル石炭ハ煉炭十七萬六千九百四噸半無煙炭二萬五千七百三十四噸ナリ斯クノ如クニシテ烏蘇里礦山地方ニ於ケル炭礦會社ノ千九百十六年度石炭並褐炭賣捌高ハ四十七萬二千八百四十噸ニシテ其外「スーチャン」官有炭礦ノ「コークス」賣捌高四千二百七十六噸ヲ算ス

ルコトヲ得

最近數年間烏蘇里礦山地方へ輸入セシ外國炭ハ關稅局ノ調査ニ依レハ左ノ計數ヲ以テ現ハス事ヲ得(單位噸)

年次	日本炭	支那炭	獨逸炭	合計
一九一一年	六〇、四一五	六、二八〇	一、七四五	六八、四三九
一九一二年	七一、六九五	四四二	二五三	七二、一三八
一九一三年	六八、八八七	一、二六八	五三	七〇、二〇九
一九一四年	五九、〇三二	七〇〇	二九一	七〇、〇二三
一九一五年	八一、九四五			八一、九四五
一九一六年	四七、一四八			四七、一四八

第二章 金屬鑛業

本年度ニ於テ官有財產管理局ノ發シタル金屬坑調査許可狀ハ左ノ如シ

- 鐵坑 一
- 滿淹及鉛坑 一
- 銀鉛坑 二

銀鉛、銅、並、亞鉛坑 一
 銀鉛、並、亞鉛坑 三
 亞鉛坑 一
 銅坑 一
 銅、鐵、亞鉛坑 一
 銅、亞鉛坑 一
 計 一二

計

註、右ノ外石灰石、耐火粘土及赭土坑ノ調査許可一件アリ
 又將來ニ於テ新ニ調査ノ自由ヲ與ヘラレタル地域ハ

鐵坑 二
 亞鉛坑 六
 銀坑 二
 銀鉛坑 五
 銀、亞鉛、銅坑 二
 亞鉛、銀鉛、銅坑 六

鉛、亞鉛及硫黃坑 一
 銀鉛及亞鉛坑 一
 銅、並、銀鉛坑 二
 銅坑 四
 モリブデン坑 一
 計 三二

將來採鑛スヘキモノト決定シタル坑山

一、鐵坑 四
 二、銀鉛及鐵坑 一
 三、銀鉛坑 一二
 四、鉛坑 四
 五、鉛、銅坑 二
 六、銅坑 一
 計 二四

千九百十七年一月一日現在ニ於ケル採鑛決定ノ坑山數ハ金屬坑四十、石灰石坑一ナ

順序 番號	坑名	認可年月	營業狀態
一	ブラゴダートヌイ(フリネル所有)	七月八日	義務採掘
二	ベロゴールスキイ鐵礦(アルツト所有)	一月九日	同
三	ボリーソフスキイ銀鉛坑(テチユーへ礦業株式會社所有一九〇九年讓渡)	三月十日	從業
四	ヴラヂーミルスキイ鐵坑(アルツト所有一九一二年讓渡)	五月十日	義務採掘
五	ヴェーリン亞鉛坑(テチユーへ礦業會社所有)	八月十一日	從業
六	第一ゴルブシンスキイ銀鉛及亞鉛坑(ビヤンコフ兄弟商會所有)	六月十三日	休
七	第二ゴルブシンスキイ	同	同
八	第三ゴルブシンスキイ	同	同
九	第四ゴルブシンスキイ	同	同
一〇	エリザヴェチンスキイ銀鉛坑(ヴオルコフ所有)	九月十一日	同
一一	エリザヴェチンスキイ銅坑(オズミードフ所有)	七月十三日	義務採掘
一二	コンスタンチノクススキイ鐵坑(アルツト所有)	十一月十七日	同
一三	キリーロフスキイ銀鉛坑(テチユーへ礦業會社所有一九一三年讓渡)	十一月十八日	休

一四	レオニードフスキイ銀鉛坑(同會社所有一九〇九年讓渡)	三月九日	從業
一五	マグニートヌイ鐵坑(グロマーツキイ所有一九一〇年讓渡)	七月八日	義務採掘
一六	マルガリートフスキイ鐵坑(アルツト所有一九一二年讓渡)	七月九日	同
一七	マルガリートフスキイ銀鉛坑(テチユーへ礦業株式會社所有一九〇九年讓渡)	三月七日	從業
一八	マリンスキイ銀鉛坑	三月三日	休
一九	第一ムラーモルヌイ鐵坑(ビヤンコフ兄弟商會所有)	八月十五日	同
二〇	第二ムラーモルヌイ鐵坑	同	同
二一	第三ムラーモルヌイ	同	同
二二	第四ムラーモルヌイ	同	同
二三	ニコラーエフスキイ鐵坑(アルツト所有一九一二年讓渡)	五月九日	義務採掘
二四	ナデージンスキイ鐵坑	同	同
二五	ナターリエフスキイ亞鉛坑(テチユーへ礦業會社所有)	二月九日	從業
二六	ニトニンスキイ銀鉛坑	二月七日	休
二七	ナターロフカ銅坑(オズミードフ所有)	六月九日	同
二八	オレーゴフスキイ銀鉛坑(テチユーへ株式會社所有)	六月九日	同
二九	センチャイブリスキイ(九月)銅及銀鉛坑	九月四日	同
三〇	スヴェートルイ銀鉛坑	六月八日	同

三一	第一セールギエフスキイ鐵坑 <small>(セールギエフスキイ鐵鑛會社所有)</small>	十一月廿五年	休
三二	第二セールギエフスキイ鐵坑 同	同上	同上
三三	第三セールギエフスキイ鐵坑 同	同上	同上
三四	第四セールギエフスキイ鐵坑 同	同上	同上
三五	第一シナンチンスキイ銀鉛及亞鉛坑 <small>(ビヤンコフ兄弟商會)</small>	九月三十四日	同上
三六	第二シナンチンスキイ 同	同上	同上
三七	第三シナンチンスキイ 同	同上	同上
三八	第四シナンチンスキイ 同	同上	同上
三九	スカリーストウイ鐵坑 <small>(アルツト所有一九一三年讓渡)</small>	同	同
四〇	フエリクソフスキイ銀鉛坑 <small>(テチユーヘ礦業株式會社所有一九〇九年讓渡)</small>	同	同
四一	カリエールヌイ石灰坑 <small>(テチユーヘ會社所有)</small>	同	同

右表ニ見ルカ如ク千九百十七年一月一日現在烏蘇里礦山地方ニ於ケル坑數ハ左ノ如ク分類スルコトヲ得

- 一、銀鉛及亞鉛坑 二〇
- 二、鐵坑 一七
- 三、銅坑 二

四、銅及銀坑

計 四〇

右ノ外石灰石工場一箇所ヲ算ス而シテ本年度ニ於テ採礦ニ從事シタル坑數ハ左ノ如シ

- 一、銀鉛及亞鉛坑 五
- 二、鐵坑 九
- 三、銅坑 一

計 一五

金屬鑛ノ採掘額千九百十六年度ニ於ケル本地方各金屬坑ノ採掘額ハ次ノ數字ニテ示スコトヲ得

- 一、銀鉛鑛 五五、六二八
- 二、亞鉛鑛 五、三四四
- 三、鐵鑛 一、四七〇
- 四、銅鑛 一、二一

最近數年間ニ於ケル本地方採掘額ハ左表ノ示ス如シ(單位噸)

年 度	銀 鉛	亞 鉛	鐵	銅
一九一一年	四、四四四	二、三、九八七	一、七一〇	六二
一九一二年	五、〇一九	二、八、〇一八	一、六三六	
一九一三年	二、九、五八〇	二、六、二九〇	一、一八二	一二九
一九一四年	一、三、七三八	一、九、九五五	一、一七八	
一九一五年	四、九、一五五	七、七三四	八三六	
一九一六年	五、五、六二八	五、三四四	一、四七〇	一二一

(註) 右ノ外千九百十六年決定セラレタルモ未タ認可ヲ受クルニ至ラサリシ數坑(ジグーレフ所有「フフスンスキイ」アルツト所有「第二、第三、第四、小シナチンスキイ」)ニ於テ亦銀鉛銅ノ產出アリ

最近三年間本地方金屬鑛產出高(會社別)

順序 番 號	所 有 者 名	探 鑛 額 (單位噸)
一	(一) 銀 鉛 鑛 テチユーヘ鑛業株式會社	一三、五六二
二	アルツト(第二、第三、第四マロシナチンスキイ坑)	四九、一五五
三	ジグーレフ(フフスンスキイ)	一、九三三
		一七三

順序 番 號	所 有 者 名	探 鑛 額 (單位噸)
四	ビヤンコフ商會(第一シナチンスキイ)	一四五
五	ヴオルコフ(エリザウエチンスキイ)	三三
	合 計	一三、七三八
一	(二) 亞 鉛 鑛 テチウヘ鑛業株式會社	一九、九二六
二	ビヤンコフ兄弟商會(ゴルブシンスキイ)	二九
	合 計	一九、九五五
一	(三) 鐵 鑛 鑛山技師アルツト	五〇〇
二	グロマーヅキイ	三三三
三	ブリネール	三五七
	合 計	一、二七九
一	(四) 銅 鑛 ベツベル及オズミードフ西伯利鑛業株式會社	八三六
	合 計	一、四七〇

右表ノ示ス如ク最近三年間本地方ニ於テ銀鉛及亞鉛ノ探掘ニ從事シタルハ殆ト「テチユーヘ株式會社」ノミニシテ鐵鑛ノ產額ハ微々トシテ云フニ足ラス又銅鑛ニ至テハ全然皆無ト言フヘキ狀態ニ在リ

千九百十七年一月一日現在本地方ニ於ケル四十箇所ノ金屬坑ノ從業狀態如何ト見ルニ

一般市場用ノ爲メニ採鑛ニ從事セルモノ 五

義務採掘ニ從事セルモノ 一〇

採掘ヲ中止セルモノ 二五

金屬鑛ノ販賣狀態 本年度ニ於ル「テチウ」ハ礦業株式會社「ハ凝化鉛五千四百四十噸（此價格百十九萬六千八百十四圓）及燃燒異極鑛 (burnt calamine) 四千七百九十三噸（此價格五十三萬五千五百四十三圓）以上合計百七十二萬八千三百五十七圓ヲ日本へ輸出セ

リ 右五千四百四十噸ノ輸出凝化鉛ノ中四千四百九十二噸ハ之ヲ分析シテ銀並ニ鉛ノ二金屬トナシタル上返送スルヲ條件トシテ熔解セシムルコトトセリ千九百十六年「テチウ」ハ會社へ返送セラレタル鉛ハ二百噸ニシテ此代價十七萬二千七百五十七圓殘餘ノ鉛及銀ハ千九百十七年返送セラルルコトトナリ居レリ本年度ニ於ケルアルツト所有「第一マロシナチンスキイ坑」銀鉛採掘高千九百三十二噸ノ中日本及莫斯科へ三十二噸ヲ賣却シタリ（此價格三千九十六圓）「ジグーレフ」所有「プフスンスキイ坑」ニ

於テ採掘シタル銀鉛鑛ハ販賣用ニ供セラレサリキ該坑ニ於テハ本年度熔鉛試驗所ヲ設立シ鉛五百十五噸ヲ熔解セリ又本年度ニ於テ採掘シタル鐵鑛並銅鑛ハ販賣ニ供セラレサリキ

第三章 金 鑛 業

本年度烏蘇里地方ニ於ケル金鑛業ハ左ノ如シ

金鑛脈地届出件數 二〇

金鑛精密調査許可狀下附數 二

金鑛脈地トシテ届出ノ自由ヲ與ヘラレタル地區數 一五

金坑開鑿認可件數 六

官有編入坑數 五

千九百十七年一月一日現在本地方ニ於ケル金鑛數ハ左ノ如シ

從業中及調査中ノモノ 一一(面積 923 ²²²⁹/₂₄₀₀ テシヤチン)

休業中ノモノ 六(面積 5,558 ¹³⁶²/₂₄₀₀ 同)

合計 七四(面積 6,482 ¹¹⁹¹/₂₄₀₀ 同)

採金額 本年度ニ於テ金ノ採掘ヲ爲シタルハ都合八坑ニシテ一坑ニ於テハ金ヲ含有セル石英ヲ産出シ三坑ニ於テハ調査竝ニ準備作業ニ從事セリ
 本年度ニ於ケル烏蘇里地方産金額

金 鑛	九、一九二
砂 金	二、〇一八
合 計	一一、二一〇

右ノ數量ノ中

(owner system)

金坑所有者附屬機關ニ依リテ採取シタル額 九、一二三
 採金人夫ノ採取シタル額 二、〇七一

ニシテ採金人夫ノ報酬ハ「ゾロトニツク」ニ付三留六〇哥乃至四留五十哥トス最近數年間ニ於ケル烏蘇里地方採金額ハ次ノ數字ヲ以テ表スコトヲ得(單位匁)

年 次	金 鑛	砂 金	計
一九一一年	五、一三三	一、四、九六六	一五、四七六
一九一二年	一、二六二	二、四五五	三、七三一

所有者別採金額表 (單位匁)

順 序	所 有 者 名	一九一四年	一九一五年	一九一六年
一	ヴルデン(アスコリドスキ坑)	一三、七三八	一七、七六三	八、九九七
二	クステル(オスノヱリマイ坑)		一、三三二	
三	クローク(ブリヤートマイ坑)	一、一四三	一、二二六	一、五〇五
四	クリースク(チンカン舍金坑一九一五年認可)		七三	四
五	第一(チンカンスキ坑一九一六年認可)			三三
六	第二(チンカンスキ坑一九一六年認可)			一八六
七	マナーエフ(チンカンスキ坑)			三四五
八	コマロフ(コマロフスキ坑一九一五年認可)			九〇
九	シャホフスコイ公爵(第一乃至第四マリンスキ坑一九一六年認可)			

アスコリドスキ坑ニ於ケル採金額ノ減少ノ理由ハ時局ノ爲碎鑛機ノ補充部分ヲ

購入スル能ハス坑内ニ於ケル碎鑛工場ノ運轉ヲ中止スルノ止ムヲ得サリシニ起因スルモノナリ之カ爲メ千九百十七年一月一日現在ニ於テ既ニ探掘セラレナカラ未タ分析セラレサル合金鑛石七百噸以上ヲ有セリ而シテ右鑛石ノ金含有量ハ鑛石一噸六一〇ニ付二〇匁以上ニシテ全體ノ金含有量ハ八貫七百三十七匁以上ニ上ルモノナリ

第四章 碎石業

本年度烏蘇里地方ニ於テ探掘ニ從事シタル工場ハ左ノ如シ

順序 番號	會社名	一九一六年探掘高
一	沿海州ポートランド、セメント株式會社 (石灰石)	一六、八八七立方尺 <small>但シ右石灰石ハ販賣ニ付セスシテ同會社ニ於テセメント製造用ニ供セラレ</small>
二	ドン會社 (石灰石)	一、五三三 <small>(石灰製造用トシテ販賣セリ)</small>
三	烏蘇里ニコリスク市役所(家屋基礎用石)	一五、七六四 此ノ價格五一、一三六圓
四	カレリナ、ストレリビーツキイ(同上)	此價格三、二二〇圓

五 支那臣民バンヒオーズ(同上)

合計

三、五七〇
此價格六三一六圓
石灰石 二八、四二〇
建築用石 二五、三五四
此價格 八九、六二四圓

第五章 耐火粘土ノ探掘並煉瓦工場

「スタルツエフ」相續人所有「クラエウーゴリノスバツーフスキイ」坑ニ於ケル耐火粘土ノ本年度探掘額ハ三千六百五十五噸ニシテ右材料ヲ以テ同一所有者ニ屬スル煉瓦工場ニ於テ四十一萬七千箇ノ煉瓦ヲ製造シタリ(此價格三萬六千二百二十圓)右ノ外同煉瓦工場ニ於テハ九十一萬三千箇ノ普通煉瓦ヲ製出セリ(此價格二萬六千四百四十圓)耐火粘土ノ搗碎量ハ二百四十二噸ニシテ其價格三千九十六圓ナリ
沿海洲ポルトランド、セメント株式會社所屬粘土工場ニ於ケル粘土探掘高ハ五千二百七十一立方尺ニシテ同會社ハ之ヲ「セメント」製造用ニ賣却セリ

第六章 セメント及石灰ノ製造

千九百十六年ニ於ケル本地方セメント及石灰ノ産出高ハ左ノ如シ

一、沿海州ポルトランドセメント株式会社セメント二三八、〇六五樽

二、ドン會社石灰 此代價三〇二、〇五八圓

此代價 一、六一六噸

此代價 二四、七六八圓

第七章 爆發物

本年度ニ於テ諸礦山會社ノ使用シタル爆發物量左表ノ如シ (單價毎)

火藥	石炭業	採金業	諸金屬業	碎石業	銀鑛業	鉛鑛業	合計
ダイナマイト	一、三三〇	一、三三〇	二、五七一、三九六	七三〇	一六五、六〇〇	三、七〇〇、六三〇	三、三六〇
ヂゼリット	六三、九三〇	二〇〇、八八〇	二、五七一、三九六	七〇一、〇四〇	一六五、六〇〇	三、七〇〇、六三〇	三、三六〇
メツヂヤンキット	二、三五五					二、三五五	二、三五五
合計	一八、七三〇			二〇三、〇九〇	一、一五〇	三、一〇〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇

ラカローク							一八、七三〇
アモンカユシット							二〇〇、六三〇
ビクフォルド紐條	三、三五五	五、二八〇	二〇〇、六三〇	一一、六三五	七、七六一	一四七、〇八六	一四七、〇八六
ピストン	二、一七二	五、〇二二	九三、二六〇	八、一四八	六、一七二	七、七六一	一四七、〇八六
合計	六、三二七	一〇、三〇二	二九三、九二〇	二〇、八二三	一三、九三七	一八七、九六六	一八七、九六六

第八章 労働者

一、労働者數及分類

本年度ニ於ケル烏蘇里地方鑛業労働者延人員ハ左ノ如シ

一、炭坑	坑内労働	坑外労働	補助労働	合計
二、金坑	四〇五、四九五	一三五、六八七	一〇七、七三三	六三八、九一五
三、金坑	一一八、四七二	一一三、三三二	一九一、六二八	四二三、三三〇
四、石灰坑	八三、四四一	五三、五四三	一三四、九八四	一三四、九八四
五、石坑		三九、一三六	三九、一三六	三九、一三六
六、セメント工場		一四九、九五六	一四九、九五六	一四九、九五六
七、セメント工場		四八〇、五四三	二九九、三六一	一、三八六、三二一
合計	六〇六、四〇七	四八〇、五四三	二九九、三六一	一、三八六、三二一

千九百十六年度本地方ニ於ケル諸鑛業労働者ノ一年平均人員ハ四千七百八十九人

ナリトス

右労働者ノ配置状況ハ次表ノ如シ

A 作業ニ依ル分類表

一、石炭坑 二、金屬坑 三、金坑 四、石材、粘土、煉瓦、石灰セメント工場 合計	坑内		坑外		計
	人数	割合	人数	割合	
一、石炭坑	一、三〇一		* 八〇〇		二、一〇一
二、金屬坑	四三二		四六三		一、四六六
三、金坑	二五五		五八三		四五六
四、石材、粘土、煉瓦、石灰セメント工場	一、九七七		七六六		七六六
合計	四、〇六五		二、八二二		四、七八九

* 此ノ中女工十一人幼年男工十二人幼年女工三人ニシテ凡テ露國人ナリ

B 國籍別分類表

一、炭坑 二、金屬坑(洗滌工場、燒鑛爐其ノ他) 三、金鑛 合計	露國人				支那人				鮮人				印度人				計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
一、炭坑	一五五		一、九三五		六		二、一〇一		四		二、一〇一		一、四六六		二、一〇一		
二、金屬坑(洗滌工場、燒鑛爐其ノ他)	二八八		一、二七六		六		一、四六六		四		一、四六六		四五六		一、四六六		
三、金鑛	八		四三〇		六		四五六		四		四五六		四五六		四五六		
合計	四五一		三、六四一		一八		四、〇二二		一四		四、〇二二		二、三六八		四、〇二二		

四、石材、粘土、煉瓦、石灰セメント工場 合計	露國人		支那人		鮮人		印度人		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
四、石材、粘土、煉瓦、石灰セメント工場	八七		六七九		三		四		七六六
合計	五三九		四、三二二		三		四		四、七八九
割合	一一・二六%		八八・〇一%		〇・七一%		〇・〇二%		一〇〇%

最近數年間ニ於ケル本地方礦業労働者人員表

露國人 支那人 朝鮮人 タイズ 印度人 合計	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
	露國人	三三二	五〇三	五七二	八八三	不詳
支那人	一、七四四	二、〇四四	一、九四二	二、七三三	同上	一、二六%
朝鮮人	三三・八%	六・四%	七・七%	三・三%	同上	四・二二%
タイズ	一四・二%	一四・四%	〇・七%	〇・九%	同上	八七・五%
印度人			〇・五%		同上	三・四%
合計	二、七七九	二、六三二	二、四九九	三、六九二	四、三四六	四、七八九

二、千九百十六年度労働者生産率

A 石炭坑夫

坑内労働者一日生産高

坑内及坑外労働者一日生産高

〇・七八八九

〇・五九五七

坑内坑外及補助労働者一日生産高 〇・四九九
 坑内労働者一年平均生産高 〇・二四二〇
 坑内坑外及補助労働者一年平均生産高 〇・一四五〇
 最近數年間石炭坑夫生産高比較表 (單位噸)

石炭採掘高	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
坑内労働者一日平均採掘高			一、〇六三	一、〇七九		七三三
全坑労働者一日平均採掘高			五七九	六六〇		五〇〇
坑内労働者一年平均採掘高	一五三	一九四	三三三	二六八	二六八	二四九
全坑労働者一年平均採掘高	一〇三	一三三	一八〇	一六七	一六〇	一五二

B 金屬坑夫

左表ニ記シタルハ千九百十六年ニ於テ市場供給ノ爲ニ諸種金屬鑛ノ採掘ヲ行ヒタル本地方唯一ノ會社タル「テチウ」ヘ礦業株式會社所有ノ銀鉛坑並ニ鉛坑ニ關スルモノナリ

坑内労働者一日平均採掘高 〇・五一五
 坑内坑外労働者同 同 〇・三五四

全坑補助労働者ヲ含ム労働者 同 同 〇・二七四
 坑内労働者一年平均採掘高 〇・一五二
 全坑労働者 同 同 〇・〇七九

C 金 坑 夫

左表ニ記シタルハ「ブルデン」氏所有ノ「アスコリドスキイ」坑ニ關スルモノナリ該坑ニ於ケル本年度ノ採金高ハ八千四百四十三匁ニシテ本地方ニ於ケル自餘ノ十一坑ノ採金額ハ僅々二千四百匁ナリ

所有者所屬作業ニ於ケル一日平均採金高(鑛石ヨリ) 七二〇
 採金人夫所屬 同 (廢鑛石ヨリ) 一二四〇
 所有者並採金人夫所屬 同 七一九

三、勞 銀

本年度ニ於テ本地方諸鑛業會社ノ支拂ヒタル勞銀總額ハ百九十一萬六千五十六圓

(註) 但シク「ローク」所有「ブリヤートヌイ」マナ「エフ」所有「チンカンヌスキイ」及「グロマーツキイ」所有「マ
 グニートヌイ」鐵坑ニ關スル勞銀ハ材料欠缺セル爲之ヲ除外セリ

A 石 炭 坑

諸石炭坑ニ於テ労働者ニ支給シタル本年度賃銀總額ハ

八十五萬六千九百四十三留三十三哥(八十八萬四千三百六十五圓)

右一日平均支給額

一留三四哥

因ニ一九一四年度支給額

一留〇四哥

賃銀細別表

労働者類別

露 日 人 給 支 那 額 人 月 支 那 給 額 人 額

一、會社傭入労働者(賄自辨)

坑内	碎取者	運搬者	穿穴者	幹線係	カロナン	保強夫	平人	坑外
----	-----	-----	-----	-----	------	-----	----	----

1,500	2,000	1,500	2,500	1,000	1,100	1,200	1,000	1,300
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

四〇

把手係	絞盤係	火夫	補助作業	轉轆	鋸工	鍛冶工	火夫	火夫	槌工	石工	木工	平工	馬車夫	番人	坑内	碎取者
-----	-----	----	------	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	-----

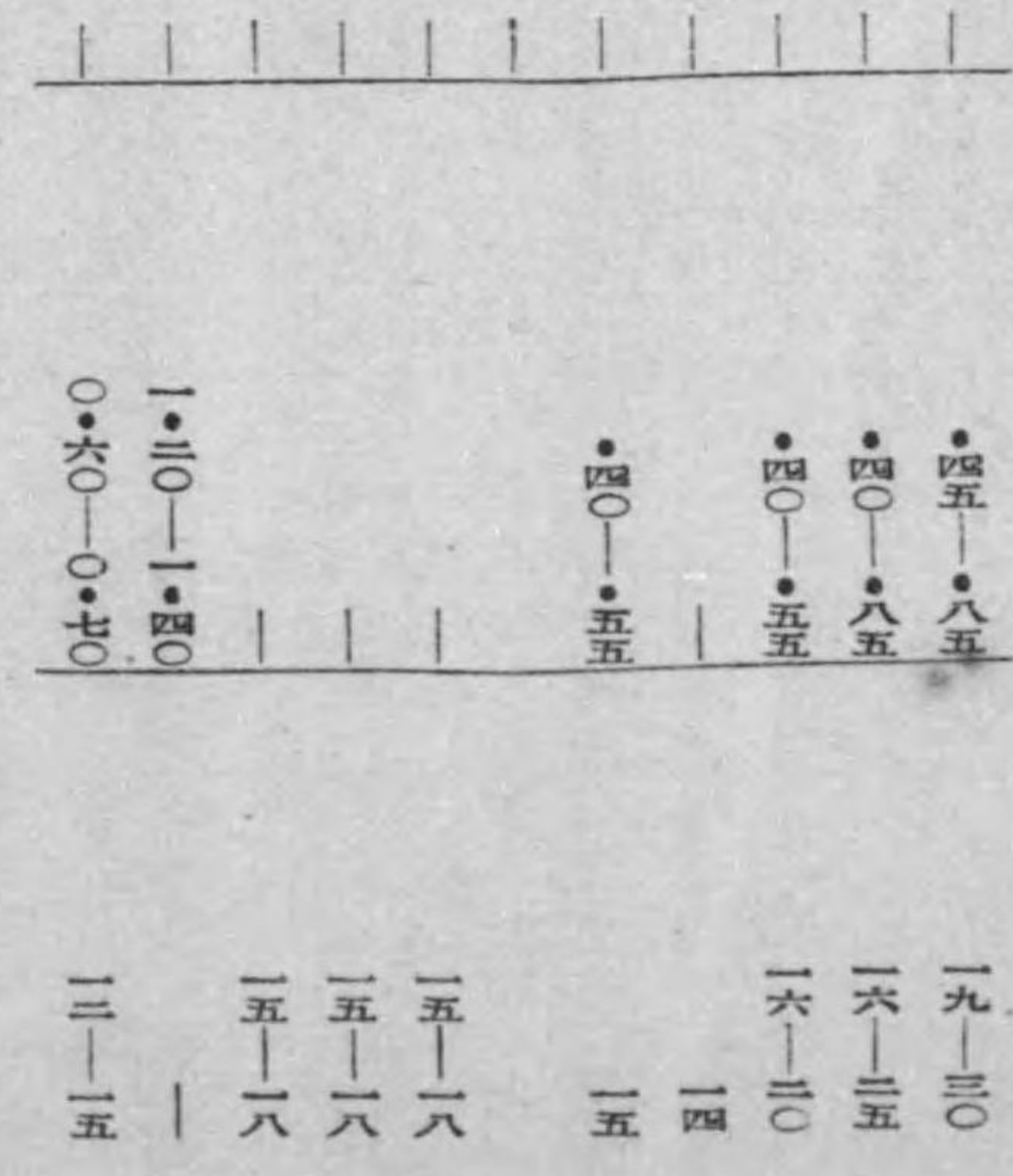
1,500	1,700	1,800	2,600	1,750	2,600	2,000	2,000	1,100	1,000	1,500	1,300	1,700	1,300	1,300	4,500
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

三五

一八一五

坑
 保強工 運搬者 削手 平橋係 人
 擔夫 馬子 道路夫 木路夫 平人

B 金屬 屬 坑



千九百十六年度ニ於テ本地方各金屬坑ノ労働者ニ支給シタル勞銀ハ六三七六五三留三七哥ニシテ其ノ平均日給額ハ一留五一哥ニ相當ス之ヲ「テチウヘ株式会社」ノ銀鉛及亞鉛及亞鉛坑ニ付テ見ルニ
 本年度勞銀支給總額 五九八、五七七留三九哥
 右平均日給額 一留四七哥

坑内労働者日給額 一留六八哥
 坑外労働者日給額 一留五六哥
 補助労働者日給額 一留三六哥
 金坑労働者平均日給額 一留五七哥
 「テチウヘ株式会社」ノ勞銀ニ關スル詳細ハ次表ニ明カナリ

坑内 保強工 自動傾斜面 フレキシ係 自動傾斜面係 碎取者	a	b	c	d	一定ノ作業成績ニ對スル給與		日給額		月給額		
					露國人	支那人	露國人	支那人	露國人	支那人	
	六五—八〇	一〇〇—一二五	六〇—七〇	一三〇—一三五	六五—八〇	一〇〇—一二五	六〇—七〇	一三〇—一三五	二・六五—二・七三	二・二〇—二・五〇	一・八〇—二・三〇

平人夫	木工	鍛冶	槌工	鋸工	馬丁
一・五〇一・七〇	二・五〇一・三・一〇	二・五〇一・三・〇〇	二・五〇一・三・〇〇	二・五〇一・三・〇〇	二・五〇一・三・〇〇
・九〇一・一・一〇	一・三〇一・一・五〇	一・二〇一・一・八五	一・〇〇一・一・二〇	一・〇〇一・一・三〇	一・〇〇一・一・三〇
三六	八五	七〇	四〇	五〇	五〇

C 金 坑

本年度ニ於テ烏蘇里地方金坑労働者ニ支給シタル勞銀總額ハ八九、七三六留二一哥
ナリ之ヲ各坑ニ付テ見ルニ「アスコリドスキイ」坑
所有者所屬支那労働者ニ對スルモノ
五七、二四〇留〇一哥

右平均日給額

一留五五哥

「該坑採金人夫ニ對スルモノ」(「ゾロトニツク」ニ付)

三留六〇哥

右平均日給額

四七哥

「オスノヴーテルヌイ」坑(クステール所有)

支那労働者平均日給額

九九哥

「カマローフスキイ」坑(カマローフ所有)

露國労働者日給額

三留一哥

支那労働者日給額

一留五六哥

朝鮮労働者日給額

一留二〇哥

「チンカンスキイ」坑(クリースク所有)

露國労働者日給額

三留一哥

支那労働者日給額

一留二〇哥

「チンカンスキイ」坑(マナーエフ所有)

支那人夫月給額

三五留

支那木工月給額

五五留

「ブリヤートヌイ」坑(クローク所有)

朝鮮労働者日給額

二留

採金人夫(「ゾロトニツク」ニ付)

四留五〇哥

D 石材、粘土、煉瓦、石灰、セメント工場

千九百十六年本地方ニ於ケル上記諸工場ノ支給シタル勞銀總額ハ

二七、二、三一〇留七二哥

三七

労働者日給額（烏蘇里ニコリスク市廳、カレーリン、ストレリビーツキイ、バンヒオーズ、ドン會社所有工場）

「スタルツェフ」相續者所有粘土採掘場
 同人所有煉瓦工場

露國人 二留七五哥
 支那人 九〇哥—二留
 支那人 一留一六哥
 支那人 一留一四哥

猶沿海州ホルトランド、セメント株式会社附屬石材、粘土、セメント工場ニ於ケル勞銀
 支出總額ハ二〇八五五二留七二哥ナリトス

「沿海州ホルトランド、セメント株式会社」所屬セメント工場勞銀支給ノ細別ハ次ノ如シ

鑄石工 (Inventaire) 軋 軋 鋸 冶 鍛 冶 槌 手	平均日給額		平均月給額	
	露國人	支那人	露國人	支那人
鑄石工	三・一	三・一	八五	八五
軋 軋	三・一	三・一	八五	八五
鋸 冶	二・一五	二・一五	六三	六三
鍛 冶	二・六〇	二・六〇	七〇	七〇
槌 手	一・五〇	一・五〇	四〇	四〇

機械	火 手	木 夫	平 夫
二・五〇	一・六〇	二・三〇	一・一〇
二・五〇	一・二〇	一・四〇	〇・七五
七〇	四五	六七	三〇
七〇	三五	四〇	二〇

四、罹災件數

本年度ニ於ケル罹災件數左ノ如シ

罹災件數	石炭坑	金屬坑	セメント工場	計
三	三	七	三	一〇

(内) 勞働能力ノ喪失
 全快(治療)三三箇月以上ノ喪失
 勞働能力ノ喪失(部分的)一箇月以上ノ喪失
 死亡(罹災後一晝夜以内)
 事件ノ結果分明セルモノ

左表ニ於テハ二十六件ノ罹災遭難ノ結果ヲ記述セルカ自餘ノ事件中二十二件ハ罹

災者タル支那臣民カ全快證明ヲ受ケスシテ坑ヲ去リタルカ爲、一件ハ治療未タ終了セサルカ爲、三件ハ報告ノ提出ナキカ爲之ヲ記述スルヲ得サリシト雖是等ハ概シテ輕微ナルモノニ屬セリ尙注意スヘキハ罹災支那勞働者カ醫療ヲ求ムルニ當リ専門醫家ヲ避ケテ支那醫師ニ向フノ一事ナリトス

炭坑ニ於ケル罹災事件ハ勞働者千人ニ對スル十人ノ割合ニシテ其ノ中死亡率ハ五分ノ割合トス金屬坑ニ於テハ五十二人、死亡率ハ一・四人、セメント工場ニ於テハ五五人ニシテ死亡率ハ一・八人、諸礦業ニ於ケル平均數ハ千人ニ對スル二十一人、死亡率三人トナル

五、補助金及年金ノ給與

本年度ニ於ケル勞働者補助金並年金給與額ハ左表ノ如シ、

石炭坑 金屬屬坑 セメント工場 計	治療中一時補助金 <small>(一九〇三年六月二日法律ニ依ル)</small>		年 金
	一九一六年 中收入	一九一六年 中支出	
石炭坑	七・三〇	六五・五〇	
金屬屬坑	八六六・五七	一、〇五三・六三	
セメント工場	二〇〇・一	一、七〇四・二三	
計	一、一三七・八七	一、七五八・四五	

六、罰金積立基金

會社名	一九一六年 一月一日現在		一九一六年 中收入		一九一六年 中支出		一九一七年 一月一日現在	
	金額	單位	金額	單位	金額	單位	金額	單位
ウヰロフスキイ石炭坑 (アルツト所有)	一四二・〇五	留幣	一一・五〇	留幣	—	—	一五三・五〇	留幣
ボトゴロドニイ炭坑 (リンドホルム商會所有)	四六・—	—	一三・五〇	—	—	—	五九・五〇	—
ダニロフスキイ炭坑 (ボロヂン相續者所有)	二・—	—	三三・五〇	—	—	—	二五・五〇	—
鉛及亞鉛坑 (テチウ(會社所有)	一、〇三三・—	—	三二六・九〇	—	五四五・—	—	七二四・九〇	—
沿海州ポルトランド セメント株式會社	六・—	—	—	—	五四五・—	—	六・—	—
合計	一、二三八・〇五	—	二七五・四〇	—	五四五・—	—	九五六・四五	—

七、醫療設費及其經費

一九一六年本地方諸礦業會社ノ醫療設費及其經費ハ左ノ如シ

番順序	會社名	經費	病院數	同上附屬 寢臺數	收容所數	同上附屬 寢臺數	醫師數	看護手數	摘 要
一	石炭坑 ウヰロフスキイ	三、七五八・九一	—	六	—	—	—	—	醫師ハ一週 一回來診ス
二	ボドゴロドニイ	三、〇九一・二二	—	—	—	—	—	—	—
三	ズイブンヌイ	四、二五・五三	—	—	—	—	—	—	—

一〇	九	八	七	六	五	四
總計	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ ボルトラドスキイ セメント會社	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ	金 坑 テチウ(會社)銀坑 アスコリドスキイ
四九、五〇・六七	三、〇四五・五三	三、〇〇六・八三	一三、四五〇・三三	四三三・〇〇	一八〇・〇〇	一、三九五・九二
二	三六	三〇	六	一	一	一
九	一	一	六	一	一	一
〇	一	一	〇	一	二	二
二	一	一	一	一	一	一
八	一	一	五	一	一	一
						ニコロスク市ノ 行醫師巡回診療ヲ

四二

八、學 校

本地方ニ於テ勤務者労働者ノ子弟教育ヲ目的トスル學校ハ「テチウ」會社經營ニ係ルモノ唯一箇所ニ過キス、該校ハ一級制ニシテ文部省ノ管轄ニ屬ス該校ニ於ケル本年度ノ修學生徒數ハ

男 生	勤務者労働者子弟	會社外ノ子弟	計
三九		八	四七

女 生	勤務者労働者子弟	會社外ノ子弟	計
二二		一三	三五
合計	六二	一三	七五

授業料及教科用品代金ハ之ヲ徴セス、教員ハ修身教師一名普通教師二名ニシテ本年度ニ於ケル經營費ハ六千五百留八十一哥トス
ウグロフスキイ「炭坑」ニ於テハ勤務者労働者ノ子弟ヲ該坑ヨリ一―二露里ヲ隔テタル「ウグロ」村ナル文部省經營ノ二級制學校へ通學セシメ居レルカ其兒童數ハ十六名ニシテ該坑ハ授業料並ニ教科用品購入費トシテ百六十三留七十哥ヲ支出セリ

第九章 技 術 員

千九百十六年本地方諸鑛業會社ニ從業セシ技術員ハ左ノ如シ

- a 鑛山技師 石炭坑
銀坑
(テチウ會社) 二二三
- b 技術技師 石炭坑 一
- c 機械技師 セメント工場 一

d	技手(鑛山學校卒業生)	石炭坑	一六六
		金屬坑	一三
e	技手(普通工業學校卒業生)	炭坑	一一二
		炭坑	二二
f	技手(試驗及第者)	炭坑	二
g	技術職工監督	炭坑	一八
		炭坑	二六
		炭坑	四三
		炭坑	四六
		炭坑	五五

第十章 烏蘇里地方鑛山業發達ニ關スル施設

本地方ニ於ケル鑛山業發達ニ關スル諸種ノ施設中先ツ第一ニ着手スヘキモノハ左ノ如シ

- 一、私營鑛山業竝ニスベテノ露國民ノ爲沿海州ニ於ケル百露里延長ノ沿岸線ノ設置
 - 二、鑛山事業ノ爲ニ低利資金ノ貸付開始
- 元來烏蘇里地方ハ各種ノ天然鑛產(石炭、金、銀、鉛、鐵、亞鉛、鐵、及銅)ニ富メリト雖モ其ノ採掘事業ノ發達ハ極メテ遅々タルモノニシテ就中金鑛竝ニ金屬鑛等ニ至リテ

ハ着手以來既ニ多年ニ亘ルニ拘ラス殆ト原始的狀態ニ在リ其ノ理由ハ主トシテ自由資金及低利貸付金ノ缺乏ニ存スルモノナリ

烏蘇里地方鑛山技師 オ ヴ ァ デ ン コ

326

339

終